

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590600017		
法人名	有限会社 オアフ		
事業所名	グループホーム オアフ 1ユニット		
所在地	滋賀県草津市草津2丁目5-24		
自己評価作成日	令和6年12月18日	評価結果市町村受理日	令和7年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和7年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の笑顔が少しでも多く見られるように、そして、「あなたがいてくれてよかった」と言っていたけるように、日々の関わりを大切にしている。また、毎日の健康チェックを怠らず、利用者様の「いつもと違う」心身の変化の早期発見に努めている。地域の中で、利用者様が安心して日々の生活を送っていただけるような、そして、感動していただけるようなサービスを提供できるよう、職員のレベル向上に努めている。新型コロナウイルスが落ち着きコロナ前の状態に戻りつつある。感染対策をしっかり行い、面会等の制限も介助し、家族様にはいつでも面会や外出などをしていただいている。また、集団でのレクリエーションや外出レクも行い、利用者様にも制限なく生活していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「オアフ」は、草津商店街の草津宿本陣近くにあり、近年は高層マンションも増えてきたが、懐かしさの残る住宅や商店がある場所に位置している。宿場祭りには、商店の軒先を借りて見学したり、徒歩圏内に、神社やお寺・da愛広場があり四季を通じて(初詣・桜・まち灯り等)地域の中で楽しめる支援に取り組んでいる。程よい広さのリビングは、家庭的な雰囲気があり、利用者と職員が冗談を言い合ったり一緒に歌を唄う姿が見られた。日々の暮らしの中では、「その人が、その人らしくいつまでも輝き続けられるように」を根幹に利用者、一人ひとりの心身の状態を把握し、思いや能力が発揮出来るよう自立(律)支援に努めている。たとえ重度化された場合も、本人・家族の意向に添えるよう医療・介護が連携して取り組んでいる。

okonai									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある			○	3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に目の付く場所に掲示して、(玄関や職員休憩室)認識を高め実施している。毎月のユニット会議で理念に基づきケアが来ているか話し合っている。	法人の理念を全職員が意識して実践に努めている。新入職員には、地域密着型の意義を丁寧に説明している。毎月のユニット会議の中でケアの振り返りを行い再確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オープン当初より自治会に加入している。利用者様の整髪は近隣の美容室へ出かけて行っている。地域の防災訓練などに参加している。	自治会の回覧板で地域行事を把握し可能な行事には参加している。近隣の美容院や商店・住民となじみ関係となり、散歩時には挨拶や言葉を交わしている。宿場祭りは、商店の軒下を借り見学をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している、広報誌「傾聴」に、認知症についての記事を掲載し、回覧板により、地域へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず2ヶ月に一度開催し、行事や取り組みを報告している。民生委員(平日は仕事がある)の交代があり中々参加して頂けていない。自治会長や地域の方にも参加の依頼はしている	定期的に代表メンバーが参集で運営推進会議を開催。事業所の近況や取り組み等の報告・情報・意見交換が行われている。呼びかけはしているが家族・地域住民代表の参加がなく模索している。	日・時間・書面参加等、家族・地域の方の意見を聞き検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点など、その都度、質問し、アドバイスをいただいている。	市の担当者が運営推進会議に参加しており定期的に近況や取り組み・ヒヤリハット等を伝え意見交換している。必要時は、いつでも相談・協力する関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まずは、何が身体拘束にあたるかを学んでいる。玄関の施錠は、防犯のためにしているが現在、9時～17時まで解除し時間を延している。その他については、外部研修に参加するなどし、意識付けをして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルを作成しスタッフ全員確認している。	外部研修(身体拘束0セミナー)に参加した職員が伝達している。内部では具体的な事例を検討した研修を行い身体拘束をしないケアに取り組み抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、全員で虐待防止に努めている。また、身体の観察、日常の変化を見のがさない。発見した際は、至急報告するよう、周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加して学んでいる。現在、後見制度を利用されている利用者様がおり、学ぶ機会が増えた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ユニットリーダーで、十分な時間を摂り契約に関する説明、重要事項の説明を行っている。その時に質問等をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の状態に合わせてケアプランの見直しを行いご家族への説明と共に、ご意見、要望をお聞きしている。また、面会時や家族ノートでお聞きするようにしている。	感染対策には留意しながら面会は自由であり、来訪時に利用者の日々の様子を伝え意見や要望を聞いている。毎月発行のお便り「傾聴」で利用者の近況を伝え意見を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時間がある時に話をしたり、毎月開催されるユニット会議においても、意見を聞く場を設けている。	ユニット会議や日々の申し送りで勤務形態に関わらず意見や提案が言いやすい雰囲気である。管理者も現場のケアに入っており話す機会はあると職員より聞きとった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の疑問等相談については、管理者から代表者に都度、行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は人員不足もあり、中々研修に参加できていないが、職員全員が階層別研修等、外部研修へ参加できるように心がけている。費用は事業所が全額負担している。研修終了後は研修報告書の提出、ユニット会議にて他の職員に研修内容を周知するようにしている。研修内容によっては、内部研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ後から、同業者との交流する機会が減ったがグループ内の交流は増えた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談の際、出来る限り、ご本人から話を聞くように努めてはいるが、家族の要望等が多くなかなか本人から十分な要望等をお聞きできないことが多い。利用後に少しずつ信頼関係を築いていっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問など、お話しのできる機会を多くとり、信頼関係を早期に築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、利用者様、ご家族様共に、安心して穏やかに過ごしていただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節ごとの行事や、日々の関わりの中で感染予防対策を考えながらレクリエーション、手伝いなど一緒に考えて行なうよう努め、遊び等を共有できる関係を築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時等、職員も共に日常生活のご様子や変化を伝え、本人様の状態を共有することで共に支え合っていく関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の方の面会時には、ゆっくりと会話できるよう、居室へご案内している。また、年賀状など、利用者様に書いていただき、郵送している。	なじみの友人や知人の面会時には、利用者の居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。近隣の美容室や商店の方と馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション活動等を通して、関わりをもっといただけるよう支援している。また、座席の場所等を配慮し、利用者様同志、友好的な関係を築いていただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院中は、定期的に見舞い、経過を把握している。また、ご家族より相談等ある場合は、その都度、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動の中から、思いや意向の把握に努め、毎日のミーティングや申し送りノートにて、情報が共有できるように取り組んでいる。	寝るとき以外はリビングで過ごす利用者が多く、見守り中の動作・利用者同士や職員との何気ない会話から思いや意向の把握に努めている。聴き取った職員は申し送り等で検討・共有して可能なことから実践に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活や言動の中から、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。事前の利用サービスについては、面接時の聞き取りのみとなっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から、心身状態の変化を早期に気づけるよう、また、残存能力の現状を総合的に把握できるよう、申し送りで情報交換を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて家族様に、本人様の要望と施設の意向を伝え、ご本人にとってより良いケアが行えるように努力している。職員間では、ユニット会議で話し合い、ケア統一表を作成し、周知徹底している。	本人には、日頃の暮らしの中で思いを聴き、家族等には、面会時や電話で要望や希望を聞いて介護計画を作成している。ユニット会議で意見交換してモニタリングし家族等に説明している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務の各時間帯に記録の記入を行ない、記載された内容は職員各自が目を通すと同時に申し送りで職員に周知している。変化が生じた場合はその都度、話し合いの場を作り、新たな計画を作成している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて、柔軟な支援ができるように努めている。例えば、緊急入院時や医療機関の受診は、ご家族に連絡の上、不都合な場合、事業所で対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街や近隣の道を散歩し、地域住民との交流をもっている。施設前にある美容室を利用して頂いている。また、地域の行事にもできるだけ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の担当主治医が2名おられ、利用前に利用者様、ご家族様に説明し、主治医の変更と適切な医療について同意をもらっている。	事業所の提携医で往診を利用。他診療科や専門医には、基本家族同行で通院（職員が同行することもある）訪問看護師とも連携しながら健康管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、週1回の訪問看護師が体調管理に訪問するようになったことにより、利用者様の安心感が増したと思われる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必ず付添い、担当医師、看護師と情報交換を行い、入院中は、定期的に面会し、ご家族様と相談しながら、早期退院へ向けて医療機関との話し合いをもつ。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約の時点で、書面及び口頭にて事業所の終末期への対応について説明させて頂き、納得して頂いている。看取りを決断される際には、医師との話し合いの場を設け、事業所の出来る事を再度、説明し同意をいただいている。	重度化の傾向にある場合、かかりつけ医からの説明・本人・家族の意向を再度確認して医療・介護の体制を整え支援に取り組んでいる。終末期の対応についての研修・看取り後の振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、各ユニット、事務所、ワーカー室等に設置し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を利用者様と共に行っている。消防職員立ち合いの下、水消火器の使い方や自動火災報知機の使い方等の指導をして頂いている。草津市と災害時における福祉避難所の協定を結んでいる	定期的に避難訓練を実施。避難経路の確認・非常時の水・食料・備品等の備えがある。自治会の防災訓練に職員が参加して参考になっている。	様々な災害を想定した、避難方法・連絡方法・協力体制等、地域や家族等の意見・情報を交換する機会が継続して持てるといいですね。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を敬う気持ちを忘れずに、その人に合ったケアに取り組む事をチーム全体で対応するよう努めている。個人情報の保護に関しては、同意書を交わし管理している。	年長者としての敬意を払い、否定をせずその人を尊重した対応を心がけている。言葉遣いにも注意を払い、入所時は丁寧語に努め日々の経過と共に馴染みの関係性が構築でき親しみのある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の伝えたい事をしっかりと把握し、受け止め、自己決定できるよう支援する。個別レクを計画し利用者様の希望を叶えられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生命保持や安全以外の理由で、職員が決まりや都合を優先することのないよう、利用者様の気分や体調に合わせて生活して頂いている。時には職員から利用者様に働きかけ意欲を引き出すような活動を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室は近隣の美容室へ出かけている。その日着用の衣類をご本人が選択できるよう心掛けています。選択できない方には、季節や場所に応じた服装を職員が選び本人様に提示してから来て頂く様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態に合わせて、通常食、ミキサー、ソフト食の中から選択している。コロナウイルス感染状況を考慮しながら縮小して行っている。また、感染対策として、各居室で食事をしていただいている。	主食・汁物は手作りし、副食は調理済みの物を温め盛り付けている。月に1～2回は調理レクを楽しまれている。焼き芋、誕生日や行事食等美味しい物を楽しく食べる支援がある。食後にトレを拭く人があり、できる力を発揮されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の仕入れ先にて、カロリー計算して下さっている。食事量、水分量に関しては個別に日々記録し職員間で把握している。水分については、好みをお聞きし提供している。食事業者を変更したことにより、より美味しい食事を提供できた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、尚且つ義歯装着の方は夜間義歯洗浄剤に浸けて義歯洗浄している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの方の排泄パターンを把握できるように努めている。水分摂取量も考慮し、トイレ誘導を実施している。主治医の指示も仰いでいる。	昨年トイレを新しく改修されていた。安全に快適に自立に向けた工夫がある。布パンツで自立の人、排泄パターンに合わせて定時・随時に誘導する人、それぞれに対応している。ユニット会議で排泄用品の見直しもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様、個々に排便チェックを行ない利用者様の排便パターンを把握できるように努めている。その上でその方に合った飲み物、果物、乳製品を提供し主治医の指示も仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は決まっているが、その日の体調を考慮して対応している。また、予定日以外に希望があれば入浴して頂いている。機械浴を設置したことで、より安全で快適な入浴時間が提供できる。	本人の希望に合わせて同性介助の配慮をしている。夜間対応や毎日入浴支援をしていた時期もあり、必要時は今後も対応可能。と聞き取る。入浴後は化粧水・乳液等で肌を整える人もあり整容の個別支援もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、その人に応じた生活時間を提供している。夜間の不眠を訴える方には、暖かい飲み物の提供や、職員との会話、居室の温度調整など行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師より説明を受け、各個人ケースに薬情報を保管し、職員に周知している。薬の変更、中止については書面で各ユニットに連絡し、誤薬のないよう周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現状に合わせた役割、楽しみを支援し、新しいことにもチャレンジにてもらえるよう工夫をしている。また、趣味・嗜好に合わせた取り組みを行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じるための外出支援を行っている。初詣、花見、紅葉狩り、紫陽花見物、コスモス見物など。また、誕生日のお祝いとして、スタッフと外食に行ったりしている。	天気の良い日は車イスの人も一緒に散歩に出かけ、敷地内の庭で外気浴やお茶タイムを楽しまれている。近くの神社に初詣に、da愛広場やまち灯り等、商店街の催しに出かけて挨拶を交わす交流がある。宿場祭では地域の協力で場所を提供してもらい観覧している。家族と外出・外食される人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理は行っていない。必要物品、個人の購入希望品があれば、事業所が立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状はやりとりができるよう支援している。希望があれば電話の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた、花や人形を飾ったり、壁紙を利用者様と共に製作している。食事時間はゆったりとした音楽を聞きながら、食事をしている。	落ち着いて過ごされている。ソファに座り替えてテレビを観る。歌や体操等レクリエーションも行われていた。台所からは調理の匂いを感じ、掲示物からは季節や日付の確認ができ見当識への配慮がある。身だしなみを整えてお洒落な雰囲気生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し、食卓ではない場所で時間を過ごせる工夫をしている。庭にベンチを設置し花壇や木々を見て頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、馴染みの家具等の持込みを依頼している。しかし、なかなか、お持ちいただけないのが現状である。	テレビ・写真・位牌等が置かれている。生活歴に合わせて信教の物もある。丸いテーブルとイスがありその人の寛げる部屋になっている。クローゼット・ハンガーラックに服が並び今日の服を自己選択・自己決定できる。できる力を得ながら掃除と寝具の清潔に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの配置、個々に合わせた介護用品の使用、体型に合った椅子の使用、または足台の使用。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	必ず2ヶ月に一度開催し、行事や取り組みを報告している。民生委員(平日は仕事がある)の交代があり中々参加して頂けていない。自治会長や地域の方にも参加の依頼はしている	毎回ではないが、自治会長・民生委員や家族様にも参加していただけるようにする	新年度に入り、自治会長も後退されたためご挨拶を兼ねて運営推進会議への参加依頼をする。また、引き続き家族様、民生委員様にも声掛けを行う	1年
2	35	災害時の地域との連携	災害時に地域との連携が取れ、お互いに助け合える環境を築く	地域の防災訓練に参加したり、施設での防災訓練に地域の方や自治会長などにも参加を依頼する	1年
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()